Premium Report

2009 年 6 月 10 日

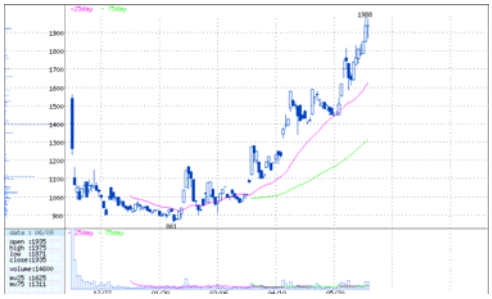
シイエム・シイ(2185)

―業績、財務体質はともに良好　公募価格突破定着なら割安修正に弾み―

取扱説明書、修理書などを編集・制作。他に社員向け商品研修やマーケティング活動支援など。トヨタ自動車グループが主力顧客。

株価(円)(09/6/9) **1935**

上場来高値/安値(円) 1975－861



売上高構成比(%)(08 年 9 月－09 年 3 月期)

インターナル・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	12.2
エクスターナル・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	11.4
カスタマーサポート・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	55.4
トータルプリンティング	6.6
その他	1.3
システム開発事業	13.1

主要指標

時価総額(億円)	43.4
発行済み株式数(株)	2,243,600
配当利回り(%)	2.06
PER(倍)	4.6
PBR(倍)	0.60
PNCR(倍)	1.43
ROE(%)	13.5
自己資本比率(%)	69.0
売上高経常利益率(%)	10.0
総資産回転率(回)	1.52
流動比率(%)	271.1
固定比率(%)	51.6

マニュアル製作の上積みにより上昇修正

08.9－09.3 期は売上高が前年同期比 10.4%増ながら、営業利益は 88.6%増と大幅増益を達成。企業の経費削減により、社員教育や販促活動にかかわる業務は伸びなかったため計画比では下振れたものの、利益率の高いマニュアル作成で受注上積みがあった。これにより通期業績計画を上方修正した。

HV生産の前倒しが追い風

自動車各社はハイブリッド車(HV)の売れ行き好調を受け、HVの販売を前倒しする計画。これを受けてマニュアル受注環境も良好だ。同社の業績は販売台数より、車種数、地域数に比例する。過去の販売不振時、自動車各社はてこ入れのため投入車種数を増やすことが多く、同社にはかえって追い風となることも多かった。また、専門知識を必要とするマニュアル作成は参入障壁があり、一度受注すると継続的な取引が見込める利点がある。

同社株は現在、公募価格まで上昇している。多くの直近 IPO 株は公募価格まで戻したところで、いったん反落もしくはもみ合いになるケースが目立つ。同社株も基本的には、戻り売りに押されやすいものとみられる。

ただし、会社側によれば修正計画は、受注済みの分だけを積み上げているという。このため、下期の下振れリスクは少ないとみられる。今後、さらなる上積みがあれば、株価が上振れるきっかけとなろう。

新興市場株の回復が鮮明ななか、業績安定感がある銘柄としてはPER(株価収益率)4 倍台、PBR(株価純資産倍率)0.6 倍にとどまり割安感は強い。また、無借金経営で流動比率も 271%と高く財務体質は強固。保有資産に占める上場株式の比率は少なく、純資産に与える影響は少ない。1900 円から 2000 円前後の売り圧力をこなせば、上昇に弾みがつこう。

＜連結業績＞

決算期		売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	配当 (円)
2008/9	通期実績	13,109	－	1,300	－	1,362	－	747	－	3750.00	20.00
2009/9	通期実績	13,043	-0.5	1,304	+0.3	1,360	-0.1	785	+5.1	414.50	0.00
2009/3	2Q実績	6,942	+10.4	1,077	+88.6	1,079	+80.7	634	+83.8	120.88	0.00
2009/9	通期会社予想	13,148	+0.8	1,505	+15.4	1,517	+11.6	925	+17.8	420.50	40.00
2009/9	ｺﾝｾﾝｻｽ予想	14,200	+8.9	1,310	+0.5	1,340	-1.5	810	+3.2	361.03	－
2010/9	ｺﾝｾﾝｻｽ予想	14,400	+1.4	1,330	+1.5	1,360	+1.5	820	+1.2	365.48	－

※　記載されている内容の著作権は、株式会社 T&C フィナンシャルリサーチおよび情報提供者に帰属します。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、株式会社 T&C フィナンシャルリサーチおよび情報提供者は一切の責任を負いかねます。2009/06/10